

6月29日

鏡山

平尾 繁和

山名	鏡山 (385m)	山行名	6月例会
ルート	野洲駅～三井アウトレット～鳴谷池～鏡山～道の駅鏡の里～野洲駅		
山行日	2019年6月29日 (土)	天候	曇り時々晴れ
参加者	CL:平尾 SL:上杉、上田、大林、西川敏		
ルート概略図	コースタイム		
省略	地名	時:分	地名
	野洲駅	着 9:11	鏡山三角点
		発 9:25	
	三井アウトレット	着 9:45	道の駅鏡の里
		発 9:50	
	鳴谷池	着 10:25	野洲駅
		発 10:25	
			発 14:45
<p>台風3号の発生や梅雨入りで天気が心配されたが、前日夕方の野洲市の天気予報を見ると「曇り時々雨、降水確率20～40%」となっていたので決行の連絡をした。野洲駅からバスで三井アウトレットパークへ、雲に覆われた空に途中での降雨を覚悟して出発。ハイキングコースに入り、体操やスプレーで虫よけの準備。鳴谷池につくが水量は少なく地面が見えていた。シダの繁った登山路は湿度が高く蒸し暑い、タオルは汗を吸いどんどん濡れていく。山頂へは雲冠寺跡をとるコースと右へ回るコースがあり後者をとった。木の階段の手前でSL持参の外郎でエネルギー補給し上りにつく。鏡山山頂の標識にて、左へ三角点に向かい昼食をとる。西側を少し下がった林内から三上山を望む。集合写真を撮って出発する。三上山への道を左にやりすぎし、しばらく行くと涼み岩、あとは尾根筋を外さぬよう道がついているのでひたすらすみ1時間あまりで小ピークの広場、星ヶ峰（星ヶ崎城跡）につく。ここから下ること30分ほどで重要文化財の石灯籠と宝篋印塔がある西光寺跡にでた。予定より早くついたので道の駅で休憩、買物をしてバスに乗る。この時期の低山山行は夏の暑さに慣れるトレーニングになるかと思えます。今年最初の山行というメンバーもおられたが、雨に会うこともなく無事下山でき、みなさんに感謝です。SLをつとめていただいた上杉さんありがとうございました。</p>			
ヒヤリハット なし			

## 鏡山

## 感想文

梅雨入りの翌日に鏡山の山行があり、雨を心配しながら参加させていただきました。雨に逢わずに鏡山を歩きましたが私は蒸し暑さにバテそうでした。里山でしたがとてもいい山でした。平尾さん上杉さんありがとうございました。

大林 京子



最近になってやっと二日前に梅雨入りしたのと、このところ雨模様が続いていたので当日の山行は中止と決め込んでいた。しかも当日の朝からは雨が降っている音を聞きながら薄目を開けてじっとしていました。しかしながら予想は見事にはずれ、真っ青な空とまではいかずとも何とか雨がやんで布団から這い出てみた。「朝一番の電話がないなー」と思いながら朝食を済ませて新田辺に向かった。待ち合わせの京都駅ホームではすでにメンバーが揃っていて、私が登場するのを今か今かと待っている様子だった。

鏡山というところは全く始めて聞く名前で、野洲駅からバスに乗って、外の景色を眺めていると国道8号線。しかも私が現役で働いているころよく客先訪問で通った道なのでなぜか安心感が漂った。とは言っても、そのあたりの道をただ通ったというだけで付近の状況については何もわかっていないの。こういう機会でもないとまだまだ関西は知らないところだらけと今更ながら思う。まあいいじゃないの幸せならば・・・

さあ、ハイキングコースの入口にはいると、すばらしい準備体操があった。何が順番になっているのかさっぱり分からずリーダーの言うとおりに従っているとみんなで何のこっちゃと笑いがこみ上げて緊張感を和らげる。そういう意味ではとても効果的では？

山の高さはたいしたことはないけど、登ったり降りたりの連続で、しかも梅雨明けのせいかさご



ーい蒸し暑い条件下でのトレッキング。おかげで持ち込んだタオル四枚では汗かきの私には不足で、次回はやっと考え直したほうがいいかもね。

歩いている時には、いつものようにお話が始まる。私はまだ入会してまもないためか性格的にも引っ込み思

案なのでなかなか知り合えることができなかったの。まあ、この山友会の男性の人たちはいい人たちばかりだけど、とりわけいっしょに参加した H さんはこの散策を通じてほんまにこのひとは群を抜いてジェントルマンやなあっとつくづく感じた。私は余計な一言を言ったり、ひとの悪口を言ったり、頑固のため周りに敵がいたりして悪い面が多いが、このひとは全く私とは異なるいいものをたくさん持っている。このような人の周りには人が集まるだろうなと素直に思ったりもした。仲間をしようという点を考えたら、もっと例会に参加しないといけないですね。

そんなこんなで、湿気にやられながらで特にぐったりと疲れもなく、ほかの人に迷惑もかけることなく無事に終わることができたのは事前に準備をいただいたお二人の方がしっかりとされていたからだと感じています。心より感謝いたします。ご苦労様でした。

西川 敏彦